

宮川の風 第69号

平成30年12月7日（金）発行
宮川小学校校長室からのたより

「宮川の風 第66号」でご紹介しました、私の「指宿枕崎線の列車の中での不安」について、続きを考えてみました。

「もしも、実際に目の前に座っている姉妹が『どうぞ座ってください』と言ってきたとしましょう。その時の私の反応は？

- ①「ありがとう。でもね、おじさんは大丈夫だからあなたたちが座ったままでいいよ」
- ②「じゃあ座らせてもらうね。親切にしてくれてありがとうね」

どちらだったんでしょうか。

裏面の話をお読みください。

勇気を振り絞ってゆずってくれた席には、感謝の言葉を伝えて座ることが良いということになります。確かに、もしも親切を断られると気まずい思いをすることになりますし、その後は席をゆずることを躊躇してしまうようになるのかもしれない。大人の立場として責任は重大だと私は感じてしまいます。

思い返すと、似たようなことがありました。

本校の運営委員会の子どもたちが、校内で「赤い羽根募金」の呼びかけをしていました。2カ所ある児童用の玄関に分かれて募金活動を行っていました。私は、一方だけ募金を入れるのではなく両方とも募金をしたいと思いました。そこで、西側玄関の子どもたちの募金箱にお金を入れました。女の子が赤い羽根をくれましたので、受け取りました。次に、東側の玄関で活動している子どもたちの所に行って募金箱にお金を入れました。当然、赤い羽根を渡そうとしてきたその時、「今、向こうで赤い羽根をもらったから（渡さなくても）いいよ」と言ってしまったのでした。募金をしてくれた人に赤い羽根を渡す責任を背負って頑張っている子の期待を裏切ったように感じました。どうして受け取らなかったのだろうと後から反省しました。

持久走大会の応援にたくさんのご家族の方が駆け付けてくださりありがとうございました。子どもたちは、練習の中で設定した自分の目標に向かって、精一杯頑張っていたようです。ライバルを意識しながら抜きつ抜かれつの攻防を経験した子、ゴール前で残りの力を振り絞り駆け抜けた子、悔し涙を流した子、目標を達成し満足した子など、大会をとおしてまたひとつ成長したようです。

持久走大会は終わりましたが、これからも体力づくりに励み、丈夫な体と強い心をつくってほしいと願っています。

「ゆめをかなえる21の力」のアンケートが明日までとなっています。お忙しい中ですが、まだ手元にあるかたは、提出をお願いします。

ある日のできごとから



「秋物の服は鹿児島では必要ない」と感じる事がよくあります。暑い日が続いたと思うと急に寒さがやってきて、夏服から合服を通り越して冬服になります。学校でも、夏の半袖で登校してくる子どもたちが今もいます。職員の中にも、半袖のシャツで過ごす者がいます。

今週末は、急に冷え込む予報が出ています。一気に冬の寒さがやってきそうです。気候に応じた服装で対処してほしいと思っています。中には半袖で頑張ることを目標にしている子もいると思いますが、決して無理のないようにしてほしいと思います。

6年生は、お揃いのTシャツで持久走大会に臨みました。半袖シャツの後ろには「笑顔」と書かれています。運動会前に作ったものですが、「小学校生活を笑顔で締めくくろう」「中学校でも笑顔で過ごそう」「仲間の笑顔を忘れないでおこう」など、いろんな意味が込められているのだと思います。寒くなって半袖を片付けても、笑顔はずっとそばにおいてほしいと思います。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）